



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

お勤めへの「入り」

住職 平田真純

何かにつけ、大事な局面においては、「集中力」とか、「気持ちの入り方」といったものが最重要になってきます。さまざまな知識や技術とともに、いやむしろ、それら以前に精神を鍛えることは大切です。日常の仕事や勝負の場面においても、あるいは体を壊し、直さねばならないときにも、時としてもものをいうのは精神力であつたりもします。いくら病気に詳しくても、病気が治るわけではありません。

聖天様の御宝前でお勤めするときも、集中力を保つことを心掛けていけば、おのずと精神力の鍛錬になるでしょう。聖天様に祈願をかけるということは、さまざまなお願い事があるからでしょうが、私たち凡夫には、先々を見通す力がないので、常に不安があり、それが集中力を保てない原因でもあり、そこを克服して、無念無想をこころがけてお勤めすることは大きな鍛錬になると思います。

とはいっても、煩惱多き私たちが無念無想を保つこ

とは容易ではありません。そこにはいろいろな要因があるでしょうが、参拝・お勤めへの「入り方」が悪いのも一つではないでしょうか。本堂に入ってから、「さあ、余計なことは考えずにお経に集中するぞ」と気合を入れても遅いのです。

たとえば大事な商談があるときに、会う場所に入る前から心の準備をしているものではないでしょうか。あるいは何かの試合に臨むときも、会場に入る前に、覚悟を決めているものではないでしょうか。相手を目の前にしてから、初めて気持ちのモードを変えらうことではないと思います。

境内に入る前から、気持ちの準備は済ませておきましょう。そして山門をくぐったら、幾分リラックスも心掛けながら、九十パーセントくらいの気合になるようにします。お堂に入ったら百パーセント「お勤めモード」にもっていきましよう。ただし、肩の力は抜いて、落ち着くように心がけます。

どんな屈強な男も、どんなやり手の女性でも仏様・神様にはかないません。日々の努力を励行の上、堂内では余計な雑念を捨てて一心に祈念しましょう。

待乳山便り

浮世絵展 報告



九月十六日より始まった第三回待乳山浮世絵展「待乳山と隅田川」はおかげさまでたくさんの方にご来場いただき、十月四日に無事終了いたしました。会場まで足をお運びいただいた全ての方に篤く御礼申し上げます。

九月十六日の開白法要及び開会式には、本浮世絵展にご協力いただいた関係者やたくさんの方の参拝者にお集まりいただきました。大倉流太鼓方能楽師、大倉正之助氏をお招きした開白法要「鼓と声明のコラボ」の際には、本堂前に設置したモニターにより内陣の様子を境内に中継。大倉氏がよく通る声と鼓の音が待乳山中に響き渡りました。また続いて江戸時代に吉原で行われた「吉原狐舞ひ」が奉演されました。狐や河童の面を被った吉原狐社中の皆様は、笛や太鼓のお囃子の音と共に境内を一周。最後は神楽殿から福餅や飴が豪快に撒かれ、観衆から歓声があがっていました。

今回の浮世絵展の目玉のひとつである「絵本隅田川両岸一覽」は、葛飾北斎が隅田川の風景を四季折々の変化とともに描いた浮世絵本です。展示会場中央のパノラマパネルは、国際浮世絵学会常



任理事の小澤弘先生によるわかりやすい解説の他、現代の神社や関連する浮世絵を合わせて記載し、歴史の流れを感じていただける構成となっていました。大正時代に復刻された「絵本隅田川両岸一覽」上中下三巻の実物が特別に展示され、来場された方は直接手に取ってご覧になっていました。

また展示会場の壁面には、当山の描かれた浮世絵が多数展示されました。九月十七日、十月一日に行われた浅草寺芸芸員、藤元裕二氏による「浮世絵展ギャラリートーク」では、ひとつひとつの作品に注目しながら展示会場を一周。待乳山が江戸に住む人なら誰もが知る名所であったことに触れながら、当時使われた技法や浮世絵の見方を参加者に説明されていました。

開山会 報告

九月二十日、当山の開山を祝う開山会大法要が執り行われました。茶室にて住職の点てた濃茶を、本堂の御宝前にお供えしたのち、百味法要が行われました。法要終了後は野点の席で住職のお点前が披露され、参道の皆様にお抹茶の接待がありました。

七五三 受付中 七五三参りの予約を受け付けております。特に土日はお申込みが多い場合がございますので、お早めにご予約ください。

ご志納金 五、〇〇〇円

星まつり受付案内 翌年の除災延命を祈願する星まつりの受付を寺務所にて開始いたしました。用紙に氏名年齢をご記入の上、お申込みください。

講金 一五〇〇円（御一人増毎五〇〇円）

待乳山いちょう編集部Q&A

先日、いちょう編集部にてメールにてお札のまつり方についてご質問を頂戴いたしましたのでご紹介、返答いたします。

問 「我が家の神棚には、待乳山聖天様と他の氏神様で今年いただいたお札を複数おまつりしておりますが、それぞれのお札を重ねるように貼っても大丈夫でしょうか？」

また今後、法要等でお札が増えますが大丈夫ですか？」

答 お札を貼る際は、重ねないように貼ってください。同じ種類のお札であっても同様です。

もし複数のお札をお持ちの場合、同じ願い事でしたら、一年を待たずに古いお札をお納めください。

おまつりする場所ですが、穢れのない部屋(客間や居間等)で、神棚や御宮箱などが最適ですが、なければ目線より高い位置ならよろしいかと思えます。

スペースの都合などで、おまつりできない方はお守りをお選びください。

今後もこのようなご意見、ご質問等ございましたら、いちょうの誌面上でお答えさせていただきます。ご質問のある方は ityou@matsuchiyama.jp まで、メールをお送りください。

十一月の御縁日大法要行事紹介

写経供養会

十一月十二日(日) 午前十一時三十分 講金一、五〇〇円

当山では毎月第二日曜日に午前十時と午後一時の二回写経の会を行っております。

昭和五十三年に発足した写経の会も今年で三十八年目に入り、皆様から納められた般若心経も六万巻を越えました。

写経供養会では、写経の会の会員の皆様が本年度ご奉納された写経を御宝前にて供養した後、皆様の心願成就を願い、大般若法要を執行いたします。

また、納経した巻数が五十巻ごとに達した方の表彰も行います。該当される方にはお葉書でご連絡いたします。

参加を希望される方は、定刻までに本堂までお集まりください。

写経供養会当日も通常通り写経の会はございますのでこちらもご参加ください。

御豊講

十一月二十日(月) 午前十一時 講金一、五〇〇円

本年も恒例の豊替えの季節がやってまいりました。今年も本堂の豊替えの寄進を募るため、御豊講を執行いたします。

新しく張り替えた畳の上でお参りをすれば心の内も新たにります。清々しい気持ちで新年を迎えるためにも皆様のお申込みをお待ちしております。

なお、通常通り本堂内参拝はできますが、講の翌日から二、三日間は本堂内の畳の張替作業をします。多少ご不便をおかけしますが、どうぞご了承くださいます。



精進料理について

八月一日より当山徒弟の杉本真海が華水供一千座の修行中です。その間、肉食は一切禁じられ、いわゆる精進料理のみ口にすることが出来ます。

仏教発祥の地インドでは僧侶自らが漁や狩りをする事や、動物が殺されるところを見た肉、自分のためにその動物が殺されたと聞いた肉、その疑いのある肉を食べるのを禁じていました。それが中国に伝来し、中国独自の思想の影響を受け、肉や魚を食べてはいけないとされるようになり、動物性の食材や匂いの強いネギや玉ねぎ、にんにくを使わない料理を精進料理と呼ぶようになりました。

日本の精進料理は曹洞宗の開祖道元禪師が中国から帰国した後、修行僧の生活規範として宋代に制定された『禅苑清規』と自らの実体験をもとに、調理する者の心がけを書いた『典座教訓』、食事を頂く者の心構えなどが書かれた『赴粥飯法』をもとに、日本独自に発展したものです。これらの食礼作法は懐石料理の誕生など日本料理に大きな影響を与えました。

中村璋人他訳の『典座教訓・赴粥飯法』に以下のようなことが書かれています。『禅苑清規』に、「苦い、酢い、甘い、辛い、塩からい、淡いの六つの味がほど良く調っておらず、また軽軟(あつさり)として柔らかである、清潔(きれい)でけがれない)、如法作法にかなった調理がなされている」という、料理の三徳が備わっていないのでは典座が修行僧達に食事を供養したことにはならない」と言っている。まず米をとうとうとしたなら、そこに砂が混じっていないかどうかよく見、さらに砂を捨てようとしたなら、そこに米が混じっていないかどうかよく見、気をつけ、このように念を入れてよくよく注意し、気を緩めることがなかったなら、自ずと三徳は十分行き届き、六味もすべてとのい備わってくるであろう。」また、「修行僧に供養するための食事を支度し整える際の心構えは、材料が上等であるとか、粗末であるとかを問題にすることなく、仕事に対しては深い真心をもって当たり、食品材料に対しては、物を大切にし敬い重んずる心を起こすことが肝要である。」とも説かれています。

このように精進料理は一手間も二手間もかけて相手の為、ひいては自らの為に作られる料理です。食事に限らず仏さまや人に対する時は細やかな心遣いが自らの修行にもなるのではないのでしょうか。

十一月行事予定

御縁日大法要

写経供養会

十一月十二日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円也

この一年で奉納された写経を供養します。また巻数達成者には表彰式があります。

御畳講大法要

十一月二十日(月) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

本堂の御畳替えのご寄進をお願いいたします。

朝まいり会

十一月一日〜七日

午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

十一月十二日(日)

午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十一月十二日(日)

午前十時/午後一時 会費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

十一月二十五日(土) 午後五時〜七時

定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

十一月二十五日(土) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に仕上げする御礼の法要です。

十二月の行事 御縁日大法要

御開扉

十二月八日(金)

午前九時〜午後二時

参拝 無料

星祭大法要

十二月二十二日(金)

午前十一時

講金一、五〇〇円也(一鉢増每五〇〇円)

ご祈禱のご案内

祈禱料

別座祈禱 壱万円(一週間)

浴油祈禱 三千五百円(一週間)

華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知らせになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。